

Follow up

会長の時間 12－ニコニコ箱の起源

本日はクラブの二つのお財布の一つ、奉仕会計の財源であるニコニコ箱、スマイルボックスとも言いますが、この起源について辿ります。

海外ではニコニコ箱に類するものとして Fine Box と Chest Box があります。

Fine Box は罰金箱で欠席早退とかのペナルティを集める制度、Chest Box は目的を定めた募金箱、なので目的を定めずに募金をする日本のニコニコ箱とは若干違うかもしれません。

それらの起源は、やはり初期のシカゴロータリークラブだそうです。会員は食事を済ませてから会場に集まっていたので、別に会費というようなものも徴収しておらず、その代わり欠席した会員は、その都度 50 セントの罰金を払う事にし、これを罰金箱に入れる事になっていたそうです。後にこの他に例会通知に対し出欠の返事を出さなかった会員にも 50 セントの罰金を払う事にしたたり、非ニックネーム敬称利用ペナルティ・遅刻等にも罰金を科したようです。

さて日本のニコニコ箱の起源については大阪説と東京説の双方あり、大阪説については、その詳細が書かれた資料がそう多くありません。身近な記述としては、大阪 RC の HP (<http://osaka-rc.org/>) にあるクラブの特徴と言う記述の中にニコニコ箱の頁があって、次のように大阪 RC 起源説が書かれています。「そもそもの始まりは罰金箱で、現在も外国では Fine Box としているところが多い。ところが、大阪ロータリークラブの藤原九十郎君が、昭和 11 年（1936 年）区の協議会で社会奉仕に関する Presentation をした際、資金集めの方法としてニコニコ箱案を提唱、自祝のことがあった場合、めいめいニコニコとして応分の金を自発的に入れることにしたらという事になり、早速大阪クラブが実施した。当クラブが元祖であるこの制度は、今日日本国内のクラブでも実施されているようである」。

東京説は比較的記述が多く例えばロータリーの源流；炉辺談話（218）では、1936 年 9 月 30 日、東京クラブの関幸重が、玉川園の孤児 300 名を招待する為に、ありあわせの紙箱を回して募金をしたのがその起源とされその後、関が発起人となって毎例会に箱を回して誕生、祝いごと、慶事に何がしかの喜捨を求めて、この制度がニコニコ箱として定着したそうです。もちろん任意の喜捨で、その金額は自由でしたが、初期の相場は 5 円であったという記述もあります。

そして不思議な事に大阪説、東京説ともその始まりが 1936 年昭和 11 年であります。昭和 11 年はどんな年であったかと調べてみますと、二・二六事件が勃発し東京市に戒厳令布告、5 月には阿部定が東京・尾久（おぐ）の待合で情夫を殺害、下腹部を切取って逃亡、いわゆる阿部定事件を起こしています。話題・流行ではアルマイトの弁当箱がこの年に登場し、流行歌では、藤山一郎の「東京ラブソディー」、美ち奴「ああそれなのに」、東海林太郎の「郷子の実」などが流行ったようです。アメリカではチャップリンのモダンタイムスが封切られています。そしてこの年、夏季オリンピックが、第 11 回ベルリン大会、水泳女子 200m 平泳ぎ前畑秀子が金メダルに輝きました。

どうでしょう、そんな年から我々の先輩は、奉仕の資金を集めだしていました。本日はこれにて、おやかましゅうございました。